



みらいことうしん

5月号

2019年4月26日
 田園調布学園大学
 みらいこども園
 園長 勝浦芳子

☆心のよりどころを探して☆

きれいな青空に爽やかな風が心地よい季節になりました。園のこいのぼりも、「あ！こいのぼりだ！」と嬉しそうにしている子ども達に、「おーい元気かい？」と話しかけているかのように大空を気持ちよさそうに泳いでいます。

入園、進級をして、はや1ヶ月が経とうとしています。お子さんも保護者の方もドキドキわくわくの日々だったことでしょう。新しい環境に期待をもって元気に登園し、伸び伸びと遊びを楽しんでいる子、泣いて登園してなかなかお家の方から離れない子、緊張して思うように自己表現ができない子、じーと我慢している子、人の気を引きたくてわざと人を困らせてはいたずらをする子等々、いろいろなお子さんの姿が見られました。そんな中でも、一日ごとに園生活を積み重ねることにより、表情や行動が環境に適応する成長ぶりは、まるで激流を泳ぐ鯉のように逞しさを感じます。

大人は、周囲の様子や都合で、お子さんの気持ちに寄り添えられずに無理な要求や行動に出てしまいます。「何で泣いているの?」「なんで言うこと聞いてくれないの?」「早くして!」「いい加減にして!」などと怒ってしまうことやイライラしてしまいがちですが、お子さんは、常に大人の行動や気持ちを見抜いています。特にこの時期は、お子さんも保護者の方も気持ちが不安定なので、変な探り合いをして思いが伝わりません。今は、何よりも「心のよりどころ」が必要なのです。

「心のよりどころ」を言い換えると、「心の支え」ともいいます。人によって内容は違いますが、どんなことがあっても大丈夫!!というものを、今、一生懸命見つけているように思います。もし、お子様のことで悩んでいることがあるとしたら、もう少し頑張りにエールを送り温かい目で見守って欲しいと思います。また、保育者達も、一日も早くお子さん一人一人の特徴や性格を理解して、思いにどのように受けとめ導いていくか、真剣に考えて毎日の保育に向き合っています。花を美しく咲かせるには、土と水と太陽のバランスが大切なように、お子さんの成長には、愛情と理解と人とのつながりがとても大切です。今は大人の助けが必要ですが、必ず、お友達同士で楽しみを見つけて、生き生きと生活ができる日が来ます。お子さんの力を信じて、連携をとって見守っていきましょう。

さて、いよいよ5月1日から『令和』の時代になります。令和には、「文化は、人が美しく心を寄せ合う中で生まれ育つ。梅の花のように日本人が、明日への花を咲かせる国でありますように」という意味が込められています。平成時代に支持された歌、「世界で一つだけの花」の歌詞の中にも、「店先に並ぶ花は、それぞれが違う種を持ち、みな一生懸命咲いていてどれも美しい。誰がナンバーワンと争わなくてもオンリーワンでいい」というところに誰もが共感し勇気を貰ったのだと思います。日々の生活の中で、感謝の気持ちを忘れずに、より相手を思いやる気持ちを持つことが、必要になります。お互いの存在を認め合い、共に助け合うことこそ、平和の国を作る基本になることだと思います。みらいこども園の子ども達にも、自分自身を認められることから、友達や周囲の人に思いやりの心が育つことを切に願います。

